



15 左官職

美しい壁作りの技！下塗り・中塗り・上塗り



家や学校などの建物を建てる時にコテを使い、壁や床を塗って仕上げるのが左官の仕事です。一口に壁を塗ると言っても、コンクリートで作られた下地の壁をスッキリと美しく仕上げるには、下塗りから上塗りまで3工程くらいかかります。たとえば今、改築中の小学校。壁の広さや厚さは、実にさまざまです。それに合わせて材料を変えたり、下塗りして材料が乾くまで1日置いたり、雨で

仕事ができない日もある中で、納期を守っていかなくてはなりません。弟子時代は重い荷物を運び、つらいこともあったけど、誇りをもってコツコツと仕事を覚えながら<1級左官技能士>の資格を取得しました。それをもらった時には、とてもうれしかったです。どんな建物を建てる時にも、左官の仕事だけは手作業。建築の現場がある限り、ずっと長く続けられるおもしろい仕事です。



プロフィール **永田 豊博** ながた とよひろ

左官一筋 50年

長崎県出身。65歳。中学校を卒業後、川崎市にある左官工事請負会社に入る。厳しい弟子時代を経て、33歳の時、国家試験である<1級左官技能士>を取得。これまでに3つの会社を経て、現在、進和工業株式会社で作業長(リーダー)として活躍。「左官屋の仕事は、いかにその技術を体にしみこませるかが大事」。

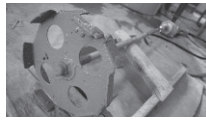
進和工業 株式会社

〒210-0837 川崎市川崎区渡田3丁目19番11号

TEL.044-322-5718 FAX.044-366-4338

活躍の場

住宅、ビルの建築現場
左官工事請負会社



仕事道具3種

- 【コテ】 壁を塗る時に使う道具。壁の幅に合わせて、大小のコテがある(写真左)。
- 【コテ板】 練った材料を乗せる板。持ち手部分は角度が異なるため、使う人の手作り(写真右上)。
- 【マゼラー(攪拌器)】 かくはんき 壁の厚みに合わせて、必要な素材を混ぜる(写真右下)。



職人からのメッセージ

● 左官職という仕事内容

■ 左官職という仕事内容

建物を建てる時にモルタルなどの材料を使って、壁や天井、床などを仕上げていくのが左官の仕事です。今では壁塗りの材料も、さまざまな種類のモノを使うようになりました。そのため、壁の厚さや幅に合わせて材料を選んだり、材料によって塗り方も変えたり、幅広い技術が必要です。



必要資格

資格はなくても、仕事は始められます。腕を磨いていく中で、国家資格<1級左官技能士>を取得すれば、現場のリーダーとして指示を出したり、仕事のやりがいも感じておもしろくなっていくでしょう。<1級左官技能士>を取得するには、現場での経験が10年ほど必要になってきます。

● 一人前になるまで

少なくとも、2~3年はかかります。さらに、壁の種類にも土壁や漆喰しっくいなど色々あり、塗り方も違うので、そういう知識を全て学んで、技術を習得するには10年は必要です。

● 左官職という仕事の展望

壁を塗るという仕事は、決して機械化できる仕事ではなく手作業。今後も建物を建てるという建築現場がある限り、左官の仕事は必要です。一度、壁塗りの技術を覚えてしまえば絶対に職を失うことはありません。

この仕事に向いている人

体力と根性があり、仲間意識も高い人。建築現場には建築士さんや大工さんなど、専門職の人たちが集まっているので、仲間意識を持って一つの建物を作っていくという気持ちが大切です。

左官職を目指す方へのアドバイス

壁塗りの技術は、体で覚えていくことが大切。今の現場には経験のある50代以上の人が多いので、これから入ってくるのであれば、先輩から学べるがたくさんあるでしょう。やる気さえあればどんどん技術を習得できますので、思い切ってこの業界に飛び込んでください。